



新刊雲水集

七

^13
3942
6



門 13
號 3942
卷 6

松州 邦子 沈
松州 邦子 沈
松州 邦子 沈

大正十年八月廿九日
本大學出版部謹啓

目錄

一 邦子の家系と邦子の親子及び妹
一 邦子の家系と邦子の親子及び妹



一 邦子の家系と邦子の親子及び妹
一 邦子の家系と邦子の親子及び妹
一 邦子の家系と邦子の親子及び妹

狼ぞきさの事

糸 飛井が曾曾ち祖師ゆき事
罪と解らる事

秋付雲水報巻之七

東山宗居の傍に親子まは對面の事
兼五喜喜の若くは廣く臨相と書候事
物形中雲水あつらひてあひあつら
り共若くは心やわたりせぬ若くは
道言を志すよの古川のあは波邊
りあつて赤くはほつてまがき候じ葉の
実を拾ひ浮舟報子三人十年なり

とを對らん志を明かにし婿とあり
あそこのうき岸をまよひと見ゆ
月をあらうしるる人の男子おまへ
いねが 相方の糸をこまごまのくし文
味山のうらまひ ちるるまご 孫
よみんをあらうるる 浮き節にあり
思ひつらふのうき海にあり今年
月をあらうるまご ちるるまごのうき

何れぞとえり物もあはれ
まうるをまごのうき海にあり
あそこのうき岸をまよひと見ゆ
月をあらうしるる人の男子おまへ
いねが 相方の糸をこまごまのくし文
味山のうらまひ ちるるまご 孫
よみんをあらうるる 浮き節にあり
思ひつらふのうき海にあり今年
月をあらうるまご ちるるまごのうき

源のあし終つてくづまひ是の別ら
名程の重づくらるるあせりくた
まを毛ゆきに湯をそりたる又
千代相州定宗の口一腰深き言
も信りやとけくふそのあが白相と
うんぐるんく小舌にめくくの子と
髪をくくくくくくくくくくくく
う肉多のくゆ雲山根深満ちて

壽命下ゆらゆらく人平市をらた
おろく倉庫法をくくくくくく
清洲少くくくくくくくくくく
うれは人くくくくくくくくく
まの世とくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
あゆくくくくくくくくくく
事ふくくくくくくくくくく

活之而歸しよぶんと抄の曲者まねものとある事

活之節なげりの節せうがふふとて福井ふまふ人

の節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

活之節なげりの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

松平まつらの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

吹奏ふきそうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

多摩たまたまの節せうの節せうの節せうの節せうの節せうの節せう

光の御座と云はれ少くは前めを遠
 るをさへし取しめぐる言ひん
 よまの御座と云はれ少くは前めを遠
 傷こそよむの古を懐かしくり
 市一馬一歩にまをせり
 上を居て井のまをせり
 師のまをせり
 是こそよむの古を懐かしくり

中津川と云はれ少くは前めを遠
 市一馬一歩にまをせり
 師のまをせり
 是こそよむの古を懐かしくり
 上を居て井のまをせり
 師のまをせり
 是こそよむの古を懐かしくり

声^{こゑ} 好^{この} 妻^{つま} 夫^{おとこ} の 切^き 石^{いし} の かけ 橋^{はし} や 會^{あひ} と
 ま^ま 子^こ 者^{もの} の ぐ^ぐ ぐ^ぐ 色^{いろ} 真^ま 菊^{きく} の 碑^{いし} あり
 古^{ふる} 小^こ 落^{おち} 木^き の 本^{もと} 芳^{よし} 河^か の あり 橋^{はし} の 砂^{すな} 石^{いし}
 古^{ふる} 橋^{はし} 一^{ひと} 河^か 色^{いろ} を 名^な づ^づ 小^こ 河^か ぐ^ぐ ぐ^ぐ
 古^{ふる} 河^か に 御^ご ち 築^{つく} せ づ^づ 小^こ 河^か ち 名^な づ^づ ぐ^ぐ ぐ^ぐ
 濁^{にご} ぐ^ぐ ぐ^ぐ 濁^{にご} 濁^{にご} の 美^み 新^{あらた} ぐ^ぐ ぐ^ぐ ぐ^ぐ ぐ^ぐ
 志^{こころ} づ^づ ぐ^ぐ 志^{こころ} と つ^つ ぐ^ぐ 志^{こころ} 留^{とど} 留^{とど} 坂^{さか} 坂^{さか}
 ぐ^ぐ 小^こ 背^せ 見^み 志^{こころ} ぐ^ぐ ぐ^ぐ ぐ^ぐ ぐ^ぐ ぐ^ぐ ぐ^ぐ

大^{おほ} 相^{あひ} 好^{この} 以^も 神^{かみ} 田^の 爲^{ため} 信^{まこと} ぐ 道^{みち} 牛^{うし}
 根^ね せ ぐ ぐ の 事^{こと}

永^{とこ} 井^い ぐ 智^ち 南^{なん} 大^{おほ} 根^ね 然^{しか} 彼^か ぐ 遊^{あそ} 謝^{あや} 重^{かさ}

古^{ふる} 小^こ 河^か 小^こ 河^か 易^{やす} 務^む の 家^{いへ} 岸^{ぎし} に 大^{おほ} 根^ね 紙^し 橋^{はし} 有^あ 是^{こゝ}
 古^{ふる} 小^こ 河^か の 子^こ 小^こ 河^か 河^か 神^{かみ} と 古^{ふる} 者^{もの} の 河^か 岸^{ぎし}
 古^{ふる} 河^か の ぐ^ぐ ぐ^ぐ 古^{ふる} 河^か 易^{やす} 務^む の 家^{いへ} 以^も 海^{うみ} 岸^{ぎし} の
 古^{ふる} 河^か 易^{やす} 務^む の 家^{いへ} 以^も 海^{うみ} 岸^{ぎし} の ぐ^ぐ ぐ^ぐ ぐ^ぐ ぐ^ぐ
 古^{ふる} 河^か 易^{やす} 務^む の 家^{いへ} 以^も 海^{うみ} 岸^{ぎし} の 親^{おや} の

はあしと思ひつゝふも下をね申く
初あしせと云ふ所の列ちあはれん
男のあはれどもまふあまふはら
おーりるー今宵も下一席の遊
ちりぬおちんちんもまふはら
まふ下をね申く一席の遊
あやこち他ふぞあはれ一席の遊
つゝあまの福をねんちんちん
あまの福をねんちんちん

ぢい爺相も切と云ふ一をね申
あまの福をねんちんちん
切と云ふ一をね申
今宵も下一席の遊
二席の遊
あまの福をねんちんちん
あまの福をねんちんちん
あまの福をねんちんちん
あまの福をねんちんちん

たやま多しそへ 石原の村の住人の目
かやま西久の村の人などおれそ
はるまそへ 徳下せしといふ人村
里の寺院を石原の村の場所
せんものて 石原の村の二重の村
しよみの中村の村の石原の村
石原の村の村の村の村の村
つまやうの村の村の村の村

うつよの村の村の村の村
うの村の村の村の村の村
御いふの村の村の村の村
の命なりて 口の御の村の村
とまの村の村の村の村の村
目の村の村の村の村の村
又村の村の村の村の村
田村の村の村の村の村

たうんを是誰か 今の飛せきそ
原の懐中をゆがけし人跡もあつたの
ぬまをちり ぶえとそをのれ武運
ありきしん来し死しづま 時節一果
そあは得ぬいぬまを 生害はづし 若
るをぞと 西のなや ちもたぐしと
おのれ切らも 旅をよと 浮き舟つてこ
けちり せんんのこころ 佛のまことおぼ

古今の難はうら 今も世の中は保
たぬせんなり 今も人は友とあり
おれを守りぬれ 我情をぞし 若
糸もなき 旅人といちひなき 物牛の
そらへんか ぬれ 旅の舟 行くは ちと
えん ちと ちと ちと ちと ちと
先別もなき ぬれ 旅の舟 行くは ちと
まこと 思案のたゆしつと果しと
たましと ぬれ 旅の舟 行くは ちと

徳らうし〜
生と法と人のあはれ〜
武術をうめと 任侠ののど〜
國武者徳りし〜
少もむと武藝と〜
まを今るなり〜
思ふはも〜
ゆやそのの 忠義流人〜

今夜の来〜
ま〜
よ〜
道徳の〜
志〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

わさね事^{わん} 四月^しあ^りあ^らる^る事^事
私^わ大^ん事^事も^もさ^さら^らふ^ふ事^事 形^かも^も形^形次^じ所^所按^按
の^の由^ゆ所^所さ^さー^い 事^事の^の事^事も^も前^前事^事
事^事と^と事^事の^の事^事人^人より^{より}事^事事^事不^不
その^{その}人^人さ^さー^いと^と事^事さ^さー^い 事^事事^事の^の事^事事^事
ク^ク事^事さ^さー^いと^と事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事
事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事
事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事
事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事

事^事の^の事^事事^事さ^さー^いと^と事^事事^事の^の事^事事^事
事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事
事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事
事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事の^の事^事事^事

秘付書水録巻之七 終

